



Title	彙報
Author(s)	
Citation	懷徳. 1963, 34, p. 61-62
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90390
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報

(懷德堂記念會)

○秋季講座 昭和三十七年十月一日(月)より六日(土)まで、本會及阪大文學部主催、朝日新聞社後援で、阪大本部松下會館講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第二十四回開講、聽講者延二百六十五名。

演題と講師

天竺の佛蹟を巡りて

相愛學園 長

今小路覺瑞先生

慈覺大師の入唐巡禮

國立奈良博物館員

小野勝年先生

敦煌の再生(ルネサンス)

京大助教授

藤枝 晃先生

ウイグル文書探索行

阪大助教授

山田信夫先生

—中央アジアからロンドンまで—

豊田 堯先生

ヨーロッパ文化と日本文化

同

宮崎市定先生

○記念祭典 昭和三十七年十月六日(土)北濱本會に於て、午後一時より記念祭典を執行し、新に小倉正恆先生を奉祀。次いで同一時四十分より記念講演會を開き、大阪大學教授村田敷之亮先生の「ギリシヤのヒューマニズム」と題する講演があつた。

○昭和三十八年一月二十日 元講師京大名譽教授、文學博士鈴木虎雄先生、老衰のため、芦屋の自宅にて逝去。

○昭和三十八年五月二日 評議員關桂三氏西宮の自宅にて逝去。

○春季講座 昭和三十八年五月二十七日(月)より六月一日(土)まで、本會及阪大文學部主催、朝日新聞社後援で、阪大本部松下會館講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第二十五回開講、聽講者延三百八十名。

演題と講師

白氏文集

京大教授 平岡武夫先生

資治通鑑

京大外大 外山軍治先生

四庫の分類法

京大人文科 鈴木隆一先生

張彥遠「法書要錄」における六朝の書論

京美大教授 中田勇次郎先生

花傳書(風姿花傳)

阪大助教授 田中 裕先生

周禮

京大教授 重澤俊郎先生

(懷德堂友會)

○昭和三十七年十月一日『懷德』第三十三號發行。

○同年十月六日(土)懷德堂恆祭に、委員參列、奉仕。

○昭和三十七年十月十四日(日)大徳寺祕寶の曝涼を、森暢先生の指導で見學、參加者六十餘名。午後七時より大徳寺塔頭黃梅院で、一久の普茶料理賞味會を催す、參會者三十名。

○同年十一月十八日(日)京都住友別邸内泉屋博古館の銅器を、杉本大阪大手前高校教諭の指導により見學、參加者五十餘名。

○昭和三十八年一月二十日名譽會員鈴木虎雄先生、老衰のため、芦屋の自宅に於て逝去(京大名譽教授、文學博士)。

○哀悼に堪えない。先生は大正十二年三月より懷德堂文科講義講師として、數年間杜甫の詩を講義された。

○同年一月二十六日京都大學に於ける鈴木先生告別式に、中川、酒井兩委員參列。

○同年五月十二日(日)森暢先生の指導により、加古川市鶴林寺の古美術と、尾上神社の國寶朝鮮渡來の梵鐘見學、參加者三十餘名。

○同年五月七日會員菅代節雄氏死去。氏は多年堂友會員として、會の發展に努力され、且つ貴重なる論文を、隨時「懷德」に發表された。氏の死去は哀惜に堪えない。謹んで弔意を表する。

○同年五月三十日會員綿谷善平氏死去。氏は懷德堂講座には、老齡にもかかわらず、缺かさずわざわざ堺から杖をついて來られた

熱心な聽講者で、又見學會には、毎回喜んで參加されていたが、幽明境を異にされ、哀悼に堪えない、謹んで弔意を表する。

○同年七月二十一日(日)奈良國立文化財研究所森蘊^{チカ}先生の指導で、京都府加茂町岩船寺、淨瑠璃寺(九體寺)の古美術を見學、猛暑にもかかわらず參加者三十餘名で、多大の感銘をうけた。

豫告

○昭和三十八年十月下旬、又は十一月初旬に、國寶美術の見學を、滋賀縣愛知郡秦莊町字松尾寺の金剛輪寺(通稱松尾寺)に行う豫定、多數の參加を希望する。